

第32回泌尿器科漢方研究会学術集会

代表幹事:堀江重郎(順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学)

日時:2015年6月20日(土) 13:00~18:05

会場:コクヨホール(東京都)

「高齢者によくある徴候と対応する生薬」

浅岡クリニック
浅岡 俊之

全ての漢方処方では複数の生薬を混合することで成立しています。つまり、生薬の複合剤であるということです。基本的に複合剤の理解とは、そこに含まれる成分の薬能を合算することでなされるのが一般的であると思われます。漢方薬の場合にはその最少単位が生薬になりますので、その適応・禁忌を理解するためにはそれぞれの処方に配合されている生薬の働きを知ることが臨床的には有用と考えられます。

漢方薬の歴史(正確にはそれを構成している生薬の利用の歴史)は非常に長く、古代からといっても過言ではありません。現在のような情報の管理、公開、検証など存在しなかった時代からのものですので、我々が扱う場合にはそれなりの工夫や注意が必要となります。しかし、恐らく皆様共通の印象として、「だからといって臨床の場で用いないのも…」ということであろうと思います。

本日は泌尿器科の研究会ですので、泌尿器科の先生方がよくお使いになられるであろう漢方処方について、特に高齢者によくある徴候に対応する生薬という視点からその適応を考えたいと思います。

六味丸：地黄、山薬、山茱萸、茯苓、沢瀉、牡丹皮

八味地黄丸：六味丸+桂枝、附子

牛車腎気丸：六味丸+桂枝、附子+牛膝、車前子

それぞれの生薬が対応する症状

地黄、山薬、山茱萸：乾き

茯苓：めまい、動悸、尿不利

沢瀉：ふらつき、尿不利

牡丹皮：小腹不仁

桂枝、附子：四肢の冷え

牛膝、車前子：下腿の浮腫

猪苓湯：猪苓、茯苓、沢瀉、滑石、阿膠

猪苓湯合四物湯：猪苓湯+四物湯(当帰、川芎、芍薬、地黄)

それぞれの生薬が対応する症状

猪苓：尿不利、下痢

滑石：熱淋、下痢

阿膠：出血

茯苓：尿不利

沢瀉：尿不利

四物湯：損傷